



医療経営

-2022 年決算データからみる-

医科診療所 経営実績分析

- ① 2022 年 経営実績とその傾向
- ② 2022 年 収入上位診療所の経営実績
- ③ 2022 年 診療科目別経営実績
- ④ 2022 年 医療法人経営指標分析結果

株式会社 AGS コンサルティング
AGS 税理士法人



1 | 2022年 経営実績とその傾向

1 | 2022年経営実績の概要

経営実数分析は、2022年の決算書に基づいて実数値から経営状況を把握することを目的としています。抽出したデータは、2023年3月までに決算を終えた無床診療所344件（医療法人228件、個人開業116件）の主要科目について、平均値を算出しています。なお、医療法人のデータについては役員報酬を除外、個人データについては専従者給与を同じく除外しています。2022年は、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えが落ち着き、全体的に増収傾向となりました。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
I 医業収入	115,955	123,794	106.8%
1.保険診療収入	97,010	104,737	108.0%
2.保険外診療収入	14,952	14,941	99.9%
3.その他医業収入	3,993	4,116	103.1%
II 変動費	21,390	22,281	104.2%
1.医薬品・診療材料費	17,217	17,960	104.3%
2.検査委託費	4,173	4,321	103.5%
III 限界利益	94,565	101,513	107.3%
IV 医業費用	54,598	56,567	103.6%
1.人件費	25,963	27,326	105.2%
2.その他固定費	28,635	29,241	102.1%
減価償却費	5,300	5,271	99.5%
地代・家賃	6,349	6,343	99.9%
研究研修費	186	189	101.6%
保険料	2,723	2,639	96.9%
接待交際費	808	922	114.1%
その他経費	13,269	13,877	104.6%
V 医業利益	39,967	44,946	112.5%

2 | 全体動向と利益の傾向

(1) 全体動向

2022年における医科診療所の経営実績は、2021年と比較して増収増益となりました。

今回の調査では、黒字診療所は全体の80.8%を占めています。医業収入は6.8%、うち保険診療収入は8.0%の増加で、変動費は4.2%の増加となりました。限界利益は7.3%の増加で、医業費用は3.6%の増加となり、医業利益は12.5%の増加となりました。

◆ 医業収入・費用等全体の傾向

● 医業収入

前年対比6.8%増加し、金額にして7,839千円の増加となりました。保険診療収入、その他医業収入は増加し、保険外診療収入はほぼ横ばいとなっています。

● 変動費

変動費は前年対比で4.2%の増加となりました。内訳を見ると、医薬品・診療材料費は前年対比4.3%増加し、検査委託費が3.5%の増加となりました。

● 医業費用

前年対比3.6%増加し、金額にして1,969千円の増加となり、役員報酬と専従者給与を除いた人件費が5.2%増加しています。その他固定費は、前年対比2.1%の増加となりました。

● 医業利益

2022年の平均医業利益は44,946千円で、前年対比12.5%、金額にして4,979千円の増加という結果でした。

(2) 利益状況

限界利益は前年対比7.3%の増加、医業利益は12.5%の増加となりました。

■ 限界利益・医業利益

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
限界利益	94,565	101,513	107.3%
医業利益	39,967	44,946	112.5%

3 | 医業収入の傾向

医業収入の実績は、下記のとおりです。医業収入合計では前年対比6.8%の増加でした。うち保険診療収入は同8.0%の増加、保険外診療収入は同0.1%の減少、その他医業収入は同3.1%の増加となりました。

■ 医業収入

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
医業収入合計	115,955	123,794	106.8%
保険診療収入	97,010	104,737	108.0%
保険外診療収入	14,952	14,941	99.9%
その他医業収入	3,993	4,116	103.1%

■ 医業収入分析

金額で見ると、保険診療収入は7,727千円の増加、保険外診療収入は11千円の減少、その他医業収入は123千円の増加となっています。

4 | 医業費用の傾向

(1) 医業費用前年対比較

医業費用の実績は、下記のとおりです。変動費合計は前年対比で4.2%の増加、人件費については同5.2%増加しました。その他固定費は2.1%の増加となりました。なお、人件費には、役員報酬及び専従者給与は含まれておりません。それぞれ個別に集計し、参考データとして掲載しました。役員報酬の母数は228件、専従者給与の母数は73件です。

① 変動費 (医薬品・診療材料費・検査委託費)

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
変動費合計	21,390	22,281	104.2%
変動費率	18.4%	18.0%	▲0.4%
医薬品・診療材料費	17,217	17,960	104.3%
検査委託費	4,173	4,321	103.5%

② 人件費

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
人件費合計	25,963	27,326	105.2%
(参考) 役員報酬	36,586	37,223	101.7%
(参考) 専従者給与	3,756	4,005	106.6%

③その他固定費

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
その他固定費合計	28,635	29,241	102.1%
減価償却費	5,300	5,271	99.5%
地代・家賃	6,349	6,343	99.9%
研究研修費	186	189	101.6%
保険料	2,723	2,639	96.9%
接待交際費	808	922	114.1%
その他経費	13,269	13,877	104.6%

(2) 医業費用の傾向

●変動費

2022年平均で22,281千円となり、前年と比較すると4.2%の増加となっています。医薬品・診療材料費が前年対比4.3%、検査委託費が同3.5%の増加、変動費率は0.4%の減少となっています。

●人件費

2022年平均で27,326千円、前年対比5.2%の増加となっています。役員報酬は2022年平均で37,223千円、専従者給与は4,005千円となっています。

●その他固定費

2022年平均で29,241千円となりました。前年対比で2.1%の増加、金額で606千円の増加となりました。

2 | 2022年 収入上位診療所の経営実績

1 | 収入上位診療所の経営実績の概要

第1章で分析した無床診療所344件（医療法人228件、個人開業116件）の決算書より、医業収入上位20%を抽出し、経営データを集計しました。分析の分母は69件で、その内訳は医療法人56件、個人開業13件です。なお本分析では人件費から役員報酬と専従者給与は除いています。

■ 2022年 収入上位診療所比較要約変動損益計算書 (単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
I 医業収入	237,941	260,179	109.3%
1.保険診療収入	203,337	223,995	110.2%
2.保険外診療収入	32,683	33,272	101.8%
3.その他医業収入	1,921	2,912	151.6%
II 変動費	55,209	59,239	107.3%
1.医薬品・診療材料費	46,667	50,244	107.7%
2.検査委託費	8,542	8,995	105.3%
III 限界利益	182,732	200,940	110.0%
IV 医業費用	107,925	114,205	105.8%
1.人件費	55,995	59,815	106.8%
2.その他固定費	51,930	54,390	104.7%
減価償却費	8,851	9,434	106.6%
地代・家賃	10,150	9,883	97.4%
研究研修費	320	369	115.3%
保険料	5,346	5,377	100.6%
接待交際費	1,312	1,571	119.7%
その他経費	25,951	27,756	107.0%
V 医業利益	74,807	86,735	115.9%

2 | 収益性の傾向

収入上位診療所の2022年経営実績は、増収増益でした。収入上位診療所の黒字診療所の割合は87.0%で、全体での80.8%という数値と比べ、黒字割合が高い結果となりました。

医業収入は全診療所データでは前年対比6.8%の増加でしたが、収入上位診療所では同9.3%の増加となっています。内訳を見ると、保険診療収入が同10.2%の増加、保険外診療収入は1.8%の増加、その他医業収入は前年対比で51.6%の増加となっています。

変動費は前年対比7.3%の増加、限界利益は同10.0%の増加となりました。医業費用は、人件費が6.8%の増加となっており、その他固定費は同4.7%の増加でした。

■ 限界利益・医業利益

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
限界利益	182,732	200,940	110.0%
医業利益	74,807	86,735	115.9%

- 限界利益は前年対比10.0%増加し、金額にして18,208千円の増加

内訳をみると、保険診療収入が前年対比10.2%の増加、保険外診療収入は同1.8%の増加、その他医業収入は同51.6%の増加となりました。

- 変動費は、前年対比7.3%増加し、金額では4,030千円の増加

内訳をみると、医薬品・診療材料費は、前年対比7.7%の増加となり、検査委託費は同5.3%の増加となりました。

- 医業費用は前年対比5.8%増加し、金額では6,280千円の増加

その内訳では、人件費が前年対比6.8%の増加で、金額にして3,820千円の増加、その他固定費は同4.7%、金額にして2,460千円の増加となりました。

- 医業利益は前年対比15.9%の増加、金額にして11,928千円の増加

3 | 医業収入の傾向

(1) 医業収入前年対比較

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
医業収入合計	237,941	260,179	109.3%
保険診療収入	203,337	223,995	110.2%
保険外診療収入	32,683	33,272	101.8%
その他医業収入	1,921	2,912	151.6%

(2) 医業収入分析 (医業収入上位20%)

- 医業収入は260,179千円で、前年対比9.3%の増加、金額にして22,238千円の増加となりました。

● 医業収入の内訳は、保険診療収入が223,995千円で前年対比10.2%の増加、保険外診療収入は33,272千円で同1.8%の増加、その他医業収入は2,912千円で同51.6%の増加となりました。

4 | 医業費用の傾向

(1) 医業費用前年対比較

医業費用の実績は下記のとおりです。変動費合計は前年対比7.3%の増加となり、人件費は同6.8%増加し、その他固定費は同4.7%の増加となっています。なお、人件費の取り扱いは前述の通りで、役員報酬の母数は56件、専従者給与の母数は11件となります。

①変動費（医薬品・診療材料費・検査委託費）（単位：千円）

	2021年	2022年	前年対比
変動費合計	55,209	59,239	107.3%
変動費率	23.2%	22.8%	▲0.4%
医薬品・診療材料費	46,667	50,244	107.7%
検査委託費	8,542	8,995	105.3%

②人件費・役員報酬（単位：千円）

	2021年	2022年	前年対比
人件費合計	55,995	59,815	106.8%
（参考）役員報酬	57,988	59,236	102.2%
（参考）専従者給与	7,275	7,608	104.6%

③その他医業費用（単位：千円）

	2021年	2022年	前年対比
その他固定費合計	51,930	54,390	104.7%
減価償却費	8,851	9,434	106.6%
地代・家賃	10,150	9,883	97.4%
研究研修費	320	369	115.3%
保険料	5,346	5,377	100.6%
接待交際費	1,312	1,571	119.7%
その他経費	25,951	27,756	107.0%

(2) 医業費用の傾向

●変動費

2022年収入上位平均は59,239千円で、前年対比7.3%の増加となりました。

医薬品・診療材料費は50,244千円で、前年対比7.7%の増加、検査委託費は8,995千円で、前年対比5.3%の増加となりました。

●人件費

2022年収入上位平均は59,815千円（役員報酬を除く）で、前年対比6.8%の増加となりました。

役員報酬の平均は59,236千円で、前年対比2.2%の増加となっています。また、専従者給与の平均は7,608千円で、前年対比4.6%の増加となっています。

●その他固定費

その他固定費の平均は54,390千円で、前年対比4.7%の増加となりました。

3 | 2022年 診療科目別経営実績

1 | 診療科目別経営実績の概要

本分析で抽出したデータは、無床診療所344件（医療法人228件、個人開業116件）の決算データから診療科目別に抽出し、各診療科目別の平均値を算出しています。

なお、抽出した診療科目は、内科、小児科、心療内科、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、産婦人科で、第1章のデータ同様、人件費から役員報酬と専従者給与は除いています。また、参考として、各診療科目上位20%のデータを記載しています。

■各データのサンプル数

- 内科 142件（医療法人 92件、個人開業 50件）
- 小児科 44件（医療法人 30件、個人開業 14件）
- 心療内科 20件（医療法人 10件、個人開業 10件）
- 整形外科 35件（医療法人 26件、個人開業 9件）
- 皮膚科 23件（医療法人 16件、個人開業 7件）
- 耳鼻咽喉科 35件（医療法人 24件、個人開業 11件）
- 眼科 20件（医療法人 14件、個人開業 6件）
- 産婦人科 7件（医療法人 3件、個人開業 4件）

注）上表の診療科に該当しない診療所もあり、無床診療所数とサンプル数は一致しない

個別データは、次ページ以降に紹介しています。診療科目別に集計した主要科目別数値は下記のとおりです。

■2022年 診療科目別主要データ

（単位：千円）

	内科	小児科	心療内科	整形外科	皮膚科	耳鼻咽喉科	眼科	産婦人科
医業収入	120,	145,	89,7	133,	101,	91,16	147,	164,
変動費	22,7	35,4	6,18	21,9	13,8	7,112	30,4	32,5
限界利益	97,8	110,	83,5	111,	88,1	84,05	116,	132,
医業費用	53,6	49,7	43,6	72,2	51,6	46,18	68,0	90,6
うち人件費	24,3	26,2	22,1	38,7	23,9	22,37	29,8	43,7
医業利益	44,2	60,7	39,9	38,9	36,4	37,86	48,9	41,4
参考： 役員報酬	38,218	32,780	38,097	34,110	36,175	31,807	42,445	67,580

2 | 診療科目別経営実績結果

(1) 内科診療所

内科等を標榜している診療所の集計データの内訳は、一般内科132件、循環器内科2件、消化器内科2件、糖尿病内科4件、その他2件の計142件です。

内科診療所は増収増益を示し、医業収入は前年より増加しています。変動費は前年対比5.2%の増加、医業費用は同4.7%の増加となりました。結果として医業利益は44,239千円で同12.5%の増加となりました。

なお、母数92件による役員報酬は、2022年平均で38,218千円となっています。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年		
		内科全体	前年対比	上位20%
I 医業収入	112,203	120,642	107.5%	253,969
1.保険診療収入	96,320	103,176	107.1%	220,462
2.保険外診療収入	14,193	14,256	100.4%	27,911
3.その他医業収入	1,690	3,210	189.9%	5,596
II 変動費	21,650	22,780	105.2%	57,527
1.医薬品・診療材料費	15,188	16,402	108.0%	43,535
2.検査委託費	6,462	6,378	98.7%	13,992
III 限界利益	90,553	97,862	108.1%	196,442
IV 医業費用	51,218	53,623	104.7%	106,376
1.人件費	22,987	24,318	105.8%	49,553
2.その他固定費	28,231	29,305	103.8%	56,823
減価償却費	5,059	5,127	101.3%	9,330
地代・家賃	5,554	5,664	102.0%	8,407
研究研修費	194	200	103.1%	377
保険料	2,617	2,695	103.0%	5,543
接待交際費	792	918	115.9%	1,753
その他経費	14,015	14,701	104.9%	31,413
V 医業利益	39,335	44,239	112.5%	90,066

(2) 小児科診療所

小児科診療所は増収増益を示し、医業収入は145,916千円で、前年対比21.1%の増加となっています。変動費は同7.5%の増加、医業費用は同10.0%の増加となりました。結果として医業利益は60,711千円となり、同43.5%の増加となりました。

なお、母数30件による役員報酬は、2022年平均で32,780千円となっています。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年		
		小児科全体	前年対比	上位20%
I 医業収入	120,517	145,916	121.1%	271,788
1.保険診療収入	74,839	100,017	133.6%	189,597
2.保険外診療収入	41,201	40,273	97.7%	77,618
3.その他医業収入	4,477	5,626	125.7%	4,573
II 変動費	32,989	35,477	107.5%	69,022
1.医薬品・診療材料費	30,068	31,110	103.5%	60,838
2.検査委託費	2,921	4,367	149.5%	8,184
III 限界利益	87,528	110,439	126.2%	202,766
IV 医業費用	45,219	49,728	110.0%	86,547
1.人件費	23,563	26,282	111.5%	43,901
2.その他固定費	21,656	23,446	108.3%	42,646
減価償却費	3,299	3,403	103.2%	5,210
地代・家賃	5,969	5,961	99.9%	8,420
研究研修費	127	160	126.0%	350
保険料	2,182	2,214	101.5%	2,820
接待交際費	704	971	137.9%	2,283
その他経費	9,375	10,737	114.5%	23,563
V 医業利益	42,309	60,711	143.5%	116,219

(3) 心療内科診療所

心療内科診療所は増収増益を示し、医業収入は89,768千円で、前年対比4.8%の増加となっています。変動費は同2.7%の減少、医業費用は同3.0%の減少となりました。結果として医業利益は39,944千円で同16.5%の増加となりました。

なお、母数10件による役員報酬は、2022年平均で38,097千円となっています。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年		
		心療内科全体	前年対比	上位20%
I 医業収入	85,638	89,768	104.8%	203,812
1.保険診療収入	74,362	62,790	84.4%	199,955
2.保険外診療収入	3,026	3,177	105.0%	3,168
3.その他医業収入	8,250	23,801	288.5%	689
II 変動費	6,355	6,184	97.3%	21,947
1.医薬品・診療材料費	5,306	5,312	100.1%	21,130
2.検査委託費	1,049	872	83.1%	817
III 限界利益	79,283	83,584	105.4%	181,865
IV 医業費用	44,991	43,640	97.0%	109,921
1.人件費	22,185	22,178	100.0%	63,987
2.その他固定費	22,806	21,462	94.1%	45,934
減価償却費	3,299	2,359	71.5%	3,605
地代・家賃	6,778	6,794	100.2%	13,596
研究研修費	205	249	121.5%	408
保険料	3,001	1,998	66.6%	4,881
接待交際費	469	631	134.5%	1,069
その他経費	9,054	9,431	104.2%	22,375
V 医業利益	34,292	39,944	116.5%	71,944

(4) 整形外科診療所

整形外科診療所は減収減益を示し、医業収入は133,137千円で、前年対比0.7%の減少となっています。変動費は同1.0%の減少、医業費用は同0.7%の減少となりました。結果として医業利益は38,952千円で同0.4%の減少となりました。

なお、母数26件による役員報酬は、2022年平均で34,110千円となっています。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年		
		整形外科全体	前年対比	上位20%
I 医業収入	134,028	133,137	99.3%	245,719
1.保険診療収入	103,898	118,400	114.0%	228,522
2.保険外診療収入	10,268	11,219	109.3%	16,048
3.その他医業収入	19,862	3,518	17.7%	1,149
II 変動費	22,123	21,906	99.0%	48,065
1.医薬品・診療材料費	19,214	19,133	99.6%	43,840
2.検査委託費	2,909	2,773	95.3%	4,225
III 限界利益	111,905	111,231	99.4%	197,654
IV 医業費用	72,800	72,279	99.3%	136,868
1.人件費	38,721	38,720	100.0%	80,427
2.その他固定費	34,079	33,559	98.5%	56,441
減価償却費	7,905	7,813	98.8%	10,472
地代・家賃	7,518	6,878	91.5%	12,624
研究研修費	134	147	109.7%	165
保険料	2,840	3,002	105.7%	8,030
接待交際費	864	920	106.5%	917
その他経費	14,818	14,799	99.9%	24,233
V 医業利益	39,105	38,952	99.6%	60,786

(5) 皮膚科診療所

皮膚科診療所は減収減益を示し、医業収入は101,989千円で、前年対比1.0%の減少となっています。変動費は同8.2%の増加、医業費用は同3.9%の増加となりました。結果として医業利益は36,484千円で同9.9%の減少となりました。

なお、母数16件による役員報酬は、2022年平均で36,175千円となっています。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年		
		皮膚科全体	前年対比	上位20%
I 医業収入	102,991	101,989	99.0%	184,145
1.保険診療収入	91,632	90,750	99.0%	149,885
2.保険外診療収入	9,843	9,586	97.4%	31,213
3.その他医業収入	1,516	1,653	109.0%	3,047
II 変動費	12,824	13,873	108.2%	42,614
1.医薬品・診療材料費	11,692	12,798	109.5%	40,329
2.検査委託費	1,132	1,075	95.0%	2,285
III 限界利益	90,167	88,116	97.7%	141,531
IV 医業費用	49,681	51,632	103.9%	88,562
1.人件費	21,998	23,920	108.7%	44,416
2.その他固定費	27,683	27,712	100.1%	44,146
減価償却費	4,720	4,973	105.4%	7,248
地代・家賃	6,852	7,021	102.5%	13,608
研究研修費	202	134	66.3%	104
保険料	2,718	2,429	89.4%	2,526
接待交際費	914	982	107.4%	1,768
その他経費	12,277	12,173	99.2%	18,892
V 医業利益	40,486	36,484	90.1%	52,969

(6) 耳鼻咽喉科診療所

耳鼻咽喉科診療所は増収増益を示し、医業収入は91,167千円で、前年対比9.0%の増加となっています。変動費は同21.4%の増加、医業費用は同2.7%の増加となりました。結果として医業利益は37,868千円で同15.6%の増加となりました。

なお、母数24件による役員報酬は、2022年平均で31,807千円となっています。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021 年	2022年		
		耳鼻咽喉科全体	前年対比	上位20%
I 医業収入	83,608	91,167	109.0%	175,484
1.保険診療収入	81,202	87,166	107.3%	167,231
2.保険外診療収入	2,195	3,780	172.2%	7,870
3.その他医業収入	211	221	104.7%	383
II 変動費	5,859	7,112	121.4%	18,971
1.医薬品・診療材料費	3,484	4,429	127.1%	12,653
2.検査委託費	2,375	2,683	113.0%	6,318
III 限界利益	77,749	84,055	108.1%	156,513
IV 医業費用	44,988	46,187	102.7%	74,170
1.人件費	20,982	22,377	106.6%	37,489
2.その他固定費	24,006	23,810	99.2%	36,681
減価償却費	4,509	4,414	97.9%	8,326
地代・家賃	5,999	6,026	100.5%	7,840
研究研修費	128	105	82.0%	176
保険料	2,500	2,104	84.2%	2,245
接待交際費	747	766	102.5%	1,212
その他経費	10,123	10,395	102.7%	16,882
V 医業利益	32,761	37,868	115.6%	82,343

(7) 眼科診療所

眼科診療所は増収増益を示し、医業収入は147,387千円で、前年対比2.3%の増加となっています。変動費は同2.6%の増加、医業費用は同1.7%の増加となりました。結果として医業利益は48,947千円で同3.0%の増加となりました。

なお、母数14件による役員報酬は、2022年平均で42,445千円となっています。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年		
		眼科全体	前年対比	上位20%
I 医業収入	144,040	147,387	102.3%	307,140
1.保険診療収入	142,085	144,550	101.7%	301,029
2.保険外診療収入	1,683	1,807	107.4%	5,958
3.その他医業収入	272	1,030	378.7%	153
II 変動費	29,634	30,409	102.6%	90,794
1.医薬品・診療材料費	28,527	29,264	102.6%	87,059
2.検査委託費	1,107	1,145	103.4%	3,735
III 限界利益	114,406	116,978	102.2%	216,346
IV 医業費用	66,879	68,031	101.7%	128,515
1.人件費	28,643	29,811	104.1%	66,555
2.その他固定費	38,236	38,220	100.0%	61,960
減価償却費	8,284	7,860	94.9%	11,916
地代・家賃	8,749	8,768	100.2%	14,238
研究研修費	405	372	91.9%	1,236
保険料	2,922	2,574	88.1%	4,386
接待交際費	1,001	975	97.4%	1,507
その他経費	16,875	17,671	104.7%	28,677
V 医業利益	47,527	48,947	103.0%	87,831

(8) 産婦人科診療所

産婦人科診療所は減収減益を示し、医業収入は164,686千円で、前年対比5.9%の減少となっています。変動費は同1.4%の減少、医業費用は同0.6%の増加となりました。結果として医業利益は41,478千円で同20.2%の減少となりました。

なお、母数3件による役員報酬は、2022年平均で67,580千円となっています。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年		
		産婦人科全体	前年対比	上位20%
I 医業収入	175,044	164,686	94.1%	386,340
1.保険診療収入	109,944	117,388	106.8%	290,509
2.保険外診療収入	62,493	44,527	71.3%	85,830
3.その他医業収入	2,607	2,771	106.3%	10,001
II 変動費	32,960	32,509	98.6%	115,795
1.医薬品・診療材料費	27,957	27,828	99.5%	104,511
2.検査委託費	5,003	4,681	93.6%	11,284
III 限界利益	142,084	132,177	93.0%	270,545
IV 医業費用	90,133	90,699	100.6%	140,889
1.人件費	43,293	43,782	101.1%	68,506
2.その他固定費	46,840	46,917	100.2%	72,383
減価償却費	7,758	7,409	95.5%	15,054
地代・家賃	6,968	6,957	99.8%	8,050
研究研修費	348	332	95.4%	1,416
保険料	4,907	4,445	90.6%	12,411
接待交際費	1,370	1,934	141.2%	314
その他経費	25,489	25,840	101.4%	35,138
V 医業利益	51,951	41,478	79.8%	129,656

4 | 2022年 医療法人経営指標分析結果

1 | 2022年医療法人経営指標分析結果

本章では、医療法人立無床診療所の228件を対象として、貸借対照表の数値を抽出し、経営指標を算出しました。

分析は、収益性、生産性、安全性、成長性の4つの視点で行っています。

■ 2022年 比較貸借対照表 医療法人立無床診療所平均 (単位：千円)

資産の部			負債の部		
	2021年	2022年		2021年	2022年
【流動資産】	77,174	85,156	【流動負債】	15,196	14,898
現金・預金	52,247	58,862	買掛金	3,368	3,526
医業未収金	18,043	18,680	その他	11,828	11,372
その他	6,884	7,614	【固定負債】	39,041	36,795
【固定資産】	66,310	66,973	長期借入金	31,738	30,035
【有形固定資産】	34,646	34,194	その他	7,303	6,760
医療用機器備品	2,039	1,911			
工具器具備品	3,613	3,680			
その他	28,994	28,603	負債合計	54,237	51,693
【無形固定資産】	3,613	3,680	純資産の部		
ソフトウェア	391	437		2021年	2022年
その他	3,222	3,243	【出資金】	6,187	6,187
【その他の資産】	28,051	29,099	【利益剰余金等】	83,059	94,248
保険積立金	25,710	26,790			
その他	2,341	2,309	資本合計	89,247	100,436
資産合計	143,484	152,129	負債・純資産合計	143,484	152,129

(注) 当期純利益は法人税等控除後の数値としています。

経営分析に必要となる主要損益数値は次のとおりです。なお職員数については平均値を算出し、9名で計算しています。

■ 2022年比較損益計算書 医療法人立無床診療所平均 (単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
医業収入計	130,784	138,889	106.2%
限界利益	107,549	115,003	106.9%
職員給与費計	68,538	70,773	103.3%
医業利益	5,594	10,015	179.0%
経常利益	10,096	15,647	155.0%

2 | 収益性分析 前年対比

		2021年	2022年	増減
収益性	総資本経常利益率	7.0%	10.3%	3.3%
	医業収入医業利益率	4.3%	7.2%	2.9%
	医業収入経常利益率	7.7%	11.3%	3.6%
	総資本回転率	0.9回	0.9回	—

■ 指標計算式

指標名	目的	計算式
総資本経常利益率	資本を使ってどれだけ効率的に利益を上げたかを見る指標	経常利益÷総資本×100
医業収入医業利益率	医業活動における利益を医業収入で除した指標	医業利益÷医業収入×100
医業収入経常利益率	医業利益に医業外損益を加えた経常利益を医業収入で除したもの	経常利益÷医業収入×100
総資本回転率	資本の何倍の医業収入があるかを見る指標	医業収入÷総資本

■収益性分析コメント

●総資本経常利益率

2022年の実績は10.3%で、前年より3.3%増加しています。

●医業収入医業利益率

2022年の医業収入医業利益率は7.2%で、前年対比2.9%の増加となりました。

●医業収入経常利益率

2022年の医業収入経常利益率は11.3%で、前年対比3.6%の増加となりました。

●総資本回転率

総資本回転率は前年実績と同水準であり、回転率に変化はありませんでした。

3 | 生産性分析 前年対比

		2021年	2022年	増減
生産性	限界利益率	82.2%	82.8%	0.6%
	1人当たり医業収入/月（千円）	1,211	1,286	75
	1人当たり限界利益/月（千円）	996	1,065	69
	1人当たり人件費/月（千円）	635	655	20
	労働分配率	63.7%	61.5%	▲2.2%

■指標計算式

指標名	目的	計算式
限界利益率	医業収入から変動費を控除した限界利益の医業収入に対する比率	限界利益 ÷ 医業収入 × 100
一人当たり 医業収入/月	一人当たりの医業収入の効率を見る	(医業収入 ÷ 職員数) ÷ 12ヶ月
一人当たり 限界利益/月	一人当たりの限界利益創出力を見る指標、労働生産性ともいう	(限界利益 ÷ 職員数) ÷ 12ヶ月
一人当たり 人件費/月	一人当たりの総額人件費（社会保険料等の事業所負担も含めたもの）を見る	(総額人件費 ÷ 職員数) ÷ 12ヶ月
労働分配率	限界利益に占める人件費の割合を見る	総額人件費 ÷ 限界利益 × 100

■生産性分析コメント

●限界利益率

前年よりも0.6%の増加で、変動費の伸び率よりも医業収入の方が上回っている状況です。

●一人当たり医業収入／月、一人当たり限界利益／月

一人当たり医業収入／月、一人当たり限界利益／月は前年とほぼ横ばいとなっています。

●一人当たり人件費／月

一人当たり人件費／月は655千円で、前年とほぼ変わらない結果となりました。

●労働分配率

労働分配率は、前年63.7%に対し2022年は61.5%で、2.2%減少しています。

4 | 安全性分析 前年対比

		2021年	2022年	増減
安 全 性	流動比率	507.9%	571.6%	63.7%
	当座比率	462.6%	520.5%	57.9%
	固定比率	74.3%	66.7%	▲7.6%
	固定長期適合率	51.7%	48.8%	▲2.9%
	自己資本比率	62.2%	66.0%	3.8%

■指標計算式

指標名	目的	計算式
流動比率	短期的な債務返済能力を見る	$\text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100$
当座比率	流動資産の中で特に換金性の高い当座資産による短期返済能力を見る	$\text{当座資産} \div \text{流動負債} \times 100$
固定比率	固定資産が自己資本でどれだけ調達できているかを見る	$\text{固定資産} \div \text{自己資本} \times 100$
固定長期適合率	固定資産が自己資本と固定負債でどれだけ調達できているかを見る	$\text{固定資産} \div (\text{自己資本} + \text{固定負債}) \times 100$
自己資本比率	総資産に占める自己資本（純資産）の割合を見る	$\text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100$

■ 安全性分析コメント

● 流動比率・当座比率

流動比率は前年対比63.7%の増加で、571.6%と短期的な債務返済能力は高いといえます。当座比率も同57.9%増加し、520.5%となっています。これは、コロナ禍において、不測の事態に対応できるよう、長期借入金などを利用して現金・預金をいつもより多く準備していたことが考えられます。

● 固定比率

前年対比7.6%の減少となっています。固定資産合計は増加していますが、利益剰余金等が大きく増加したことが一つの要因と考えられます。

● 固定長期適合率

前年対比2.9%の減少となっています。固定負債は減少しましたが、利益剰余金等が増加したことが一つの要因と考えられます。

● 自己資本比率

前年対比3.8%増加し、66.0%となっています。利益剰余金等も増加していますが、流動負債、固定負債がどちらも減少していることが自己資本比率の増加につながっています。

5 | 成長性分析 前年対比

		2021年	2022年
成長性	医業収入増加率	1.0%	6.2%
	限界利益増加率	0.6%	6.9%
	医業利益増加率	114.3%	79.0%
	経常利益増加率	280.1%	55.0%
	自己資本増加率	3.5%	12.5%

■ 成長性分析コメント

2022年は経常利益と本業での利益を表す医業利益が大幅に増加しました。また、医業収入も2021年と比較し増加となりました。2021年はコロナ禍が継続していたということもあり、患者の受診控えが診療所の収支に多大な影響を与えました。

2022年はまだコロナ禍ではあったものの、受診控えが落ち着いて少しずつ利益が出る診療所が増えてきたと考えられます。

※本文中、各表の金額は表示単位未満を四捨五入しており、端数処理の関係上合計が一致しない場合があります。